

《各学年の特徴》

- 3年 体験的な学習に関心の高い児童が多く、どの児童も意欲的に学習している。
- 4年 体験的な学習に関心の高い児童が多く、どの児童も積極的に実験や観察に取り組んでいる。
- 5年 課題に対する予想や、実験・観察結果を基にした考察を、文章で表現することができるようになってきている。
- 6年 課題に対する予想や考察を、根拠を明確にして、説明することができるようになってきている。

《学力調査から見られる指導の重点》

- ・複数の資料や実験・観察結果から、自分の考えをもち、表現できるようにする。
- ・実験器具の名称、用途を正しく理解させる。

育てたい力（課題）

- 3年 課題を発見したり、課題に対して予想したりする力。
- 4年 課題に対して根拠のある仮説や予想を立てる力。
- 5年 実験、観察結果を基に、根拠をもって考察する力。
- 6年 既習の知識と実験、観察結果を関係付けて多面的に考え、課題を解決する力。

☆授業改善の具体策☆

- ・安全指導の徹底 ・ICT機器の活用 ・生活経験との関連付け
- ・実験条件を整理し、考察する活動 ・基礎・基本となる知識習得の徹底
- ・見通しをもった取り組み
- ・実験や観察などの体験的な活動や話し合い活動の充実

- 3年 実験や観察など、体験的な活動を通して知識の定着を図る。
- 4年 実験や観察など、体験的な活動を通して知識の定着を図る。
- 5年 既習事項を活用して、基礎・基本となる知識の定着を図る。
- 6年 基礎・基本となる知識を活用して、理解を図る。

- 3年 児童の関心を高め、自ら疑問をもてるような課題を提示する。
- 4年 根拠のある予想や仮説を立てるための話し合う活動時間を十分に確保する。
- 5年 条件を整理し、考察する際に、根拠を明確にして、論理的に説明できるよう、発表、交流の場を設定する。
- 6年 根拠を明確にし、より妥当な考察を導くために、複数の実験結果を基に、話し合う活動時間を十分に確保する。

- 3年 生活経験との関連から、自然の事物・現象に対して、課題を見だし、解決の見通しを立てる場面を設定する。
- 4年 生活経験や既習の知識から、自然の事物・現象に対して、課題を見だし予想する場面を設定する。
- 5年 生活経験と既習の知識を生かしながら、粘り強く課題に取り組み、解決できる場面を設定する。
- 6年 既習の知識を活用する課題を設定し、多面的に調べたり、予想と違う結果に対して試行錯誤したりする場面を設定する。

《知識及び技能》

《思考力・判断力・表現力等》

《学びに向かう力》